

A-29 ぬかみそづけのつかりに伴うビタミンB₁の組織化学的検索
福岡女大家政 支倉サツキ 三浦みち子 上野迪子
筑紫女学園短大 川上いつゑ

目的 ぬかみそづけのビタミンB₁（以下V. B₁と略記）はぬか床中のV. B₁の移行によるものとされている。新ぬか添加を適時おこない管理のゆきといたぬか床はV. B₁量が多く、したがって以上のものにつけたぬかみそづけのV. B₁量も多い。ぬかみそづけのV. B₁量はつけ物試料の種類により、同じ品種でも部位により差異が認められる。著者らはぬか床中のV. B₁がつけ物試料の組織へ浸透分布する様相を顕微鏡下で解明する目的で蛍光法による検索をこころみ、併せてV. B₁量をしらべた。

方法 試料はだいこん（主に時なしだいこん）を用い、各部域についてしらべた。すなわち、だいこんの先端部、中央部、基部からそれぞれの皮部、中間部、中心部を採った。V. B₁の化学的定量はチオクローム法によった。組織化学的検索は試料を凍結切片にしてフエリシアン化カリによるチオクローム法をおこなった。ぬか床容器は25℃または30℃で管理した。

結果 以上の実験結果の1例として15 hrs, 22 hrs, 40 hrs. づけについて示せば、定量結果はもとより定性的にも時間の経過と共にV. B₁量の増加傾向が認められた。15 hrs. づけでは皮部のV. B₁量は中心部、中間部に比し著しく大であったが、つけ時間の経過に伴ない、22 hrs, 40 hrs. づけではそれらの差は縮まることを定性的、定量的に認めた。

V. B₁は細胞質、とりわけ核に著しく多量に蛍光を発して見出された。これは核にとり入れられたか、特異的に吸着されたかは今後の問題であると考えらる。